



生活クラブ風の村 2012 年度事業報告(抜粋)

全事業共通の方針

1. 社会福祉法人の社会的使命として、地域福祉に貢献します。

■生活クラブ千葉グループとの連携を強化し、地域資源のネットワークを作ります。

生活クラブ版地域福祉活動計画の策定と更新(第2期計画策定)、実行を進めてきました。活動計画が策定されている柏市、船橋市、成田市・栄町、市原市、佐倉市、市川市、八街市、流山市では、各団体と連携して活動を実施してきました。策定委員会を開催している千葉市美浜区、我孫子市は計画の策定までには至りませんでした。新たな市町村での策定委員会の立ち上げはできませんでした。

■支援が必要な障がい者、高齢者、子ども、生活困窮者などを支える多様な地域資源を創出します。

今年度新規オープンした事業所は既設事業所への併設も多く、新たな地域交流スペースの設置には至りませんでした。2013年度開設を予定しているはぐみの杜君津、重心通所さくらでは地域交流スペースの設置を予定しています。

■市川市に低所得者、生活困窮者向けの住まいをつくります。

ホームレス支援団体市川ガンバの会からの呼びかけに応じて、生活クラブ風の村が事業主体になって建設を行うこととなり、2012年2月にガンバの会等のメンバーを加えて市川生活困窮者向け住宅準備プロジェクト会議を立ち上げました。さらにコンセプトづくりワークショップを開催し、高齢の方、障がいのある方、生活困窮している方、孤立している方など、生活困窮の方が自立を目指すことができる、地域にひらかれた住宅が必要であることに辿りつきました。現在検討されている機能は、障害者グループホーム、認知症対応型グループホーム、生活困窮者向け住宅です。

■社福減免制度の適用事業を広げます

行政と法人内のケアマネジャーへの聞き取りを行い、社福減免を行った場合の試算を行いました。この結果をもとに、次年度から訪問介護事業所での社福減免を実施します。

■生活クラブの専門性を地域に提供し、地域福祉への理解を進めます。

キャラバンメイトの資格を持つ生活クラブ風の村の職員が講師を務め、地域に向けた「認知症サポーター養成講座」を、生活クラブ虹の街と共催で、2012年度は3件(流山市、印西市、千葉市)実施しました。

2. ユニバーサル就労を進めます。

■生活クラブ風の村でユニバーサル就労(以下 UW)としてはたらいっている方は、実習や面談を調整している方も含めて、77名(2013年3月31日現在)、2012年度に UW 支援室が相談を受けて関わった方は65名(うち23名は中断)、また新たに4事業所で取り組みが始まりました。

UW ではたらく方が増えるのに従い、事務手続き等の整理を行いました。支援する方の増加に対応して事務処理をより効率よく行うことができるよう、今後も改良に努めます。

複数型の既存事業所を中心とした UW マッチングワークショップの開催を検討していましたが、高根台つどいの家では、開設前のマッチングワークショップのメンバーに加えて外部の新たな事業者も参加、第二期 UW マッチングワークショップを開催しました。

2012年度も厚生労働省の社会福祉推進事業に採択され、補助金を活用しました。UW を進めていく上で、UW コーディネーター養成講座を開催、UW 受入れのために自分たちのしごとを細かく業務分解し、業務全体がみえるようにする業務分解シートの作成を行いました。

3. 多様なインフォーマルサービスの創出を図ります。

■2012年度は法人外部への公募を行い、風の村各事業所と連携して行う新規事業3件について、地域福祉支援積立金を活用した助成を3年間にわたり行うこととなりました。

4. ケアサービスの質を高めます。

■自立支援の視点に立ったケアの見直しを行います。全ケアマネジャーが意欲的に「自立支援の視点に立ったケアプラン」が作成できるよう、意見交換をしてきました。また、外部講師による勉強会を開催、より良いケアプラン作りを目指しました。また、リハビリテーションの体制強化に向け、リハビリ職の人材確保に努めました。リハビリ職の役割体系化に向けた議論は行うことができていませんので、来年度も継続的な課題として取り組んでいきます。

■事業の24時間365日化を進めます。

4月の制度改定で始まった定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業は、定期巡回ステーション光ヶ丘が10月に開所し、定期巡回ステーション高根台と定期巡回ステーションさくらが2月に開所しました。

■行政区ごとの戦略の構築を探ります。

2012年度はモデル行政区を設定し、長期的な事業戦略づくりを行う計画でしたが、着手には至りませんでした。

■インフォーマルサービスとの連携を図ります。

インフォーマルサービスをケアプランに位置づけるケアプラン作成の研修を強化し、法人の自主監査にも取り入れてきました。ケアプランに位置づけられたインフォーマルサービスは、生活クラブ千葉グループの団体やボランティアなどの有償福祉サービスと連携してサービスに結びつけてきました。

■事業所の複合化を引き続き進めます。

単独事業の全ての事業所で複合化に向けての検討の場を設けることはできませんでしたが、介護ステーション流山(流山施設建設プロジェクト)とデイサービスセンター船橋(高根地区包括支援プロジェクト)では、新規事業の計画と共に、複合化に向けて検討しました。流山施設は、2014年4月開所を目指し、高根台では2月から、デイサービス高根台とケアプランセンター船橋が同じ建物で事業を開始しました。

5. 権利擁護、虐待防止の取り組み

■初任者研修(年4回)や新入職員研修プログラムのなかで「権利擁護」の講義を位置づけてきました。また、各事業所の研修計画では、必須項目として位置づけ実施しています。また、苦情解決第三者委員会を配置し、入居・滞在型の事業所において、随時相談を受け付けています。

6. 組織運営の革新

■職員の運営参画を強めます。

2011年度からの継続課題とされていた、職員の意見を運営に活かせる会議運営システムや、実質的な職員代表が理事として発言できる仕組みの検討について、今年度は理事長主催の「参加型職員組織のあり方を考える懇話会」を設置し検討を始めました。懇話会の報告書は2014年度事業計画や第三次中期計画に反映させる予定です。

■事業所の組織マネジメント力を強化します

マネジメント力の強化に向けて「右腕を育てる」ための外部研修を企画し実施しました。

7. 人材育成、人材確保のシステムを構築します。

■地域福祉の理解

4月の我孫子市我孫子地区地域包括支援センター、12月の船橋市「福祉と保健の総合相談窓口」の受託により、地域環境を整える取り組みを通して、人材を確保し育成しています。

■生活クラブ千葉グループの理解

生活クラブ千葉グループについての理解を深めるために、2012年10月生活クラブ千葉グループ連絡協議会主催の地域づくりフォーラム2012を開催しました。風の村からは32名が参加しました。

■専門性を高める

法人の各拠点(八街、うすい、光ヶ丘、高根台、いなげ、市川)に教育研修室の講師を派遣し、「認知症」と「ICF」の講座を年間各6回実施し、512人の職員が参加しました。県主催の認知症実践者研修には16名の参加があり、リーダー講座には5名の参加がありました。また、様々な研修情報の提供にも努めました。

■どの事業所においても質の高いサービスを提供する

3ヵ年計画に基づき今年度は介護ステーション(訪問・居宅)とケアプランセンターの自主監査を、業務ルール徹底の観点から実施しました。改善点は担当部署を明確にし、取り組んでいきます。

■キャリアアップ制度の充実

キャリアアップの体系構築には至っていません。労働条件の改善として、事業所内保育所の検討を始め、2013年度から、時間単位での有給休暇取得制度を導入する運びとなりました。昨年11月に制定した「資格取得支援規程」に基づき申請が進んでおり、今年度は支援金の支給が始まっています。

8. 環境を保全し、持続可能な循環型社会づくりに取り組みます。

■事業所内での環境問題への取り組み

保育園、さくら冒険基地、学童クラブ(行政からの貸与)で放射線の測定を続けています。とんぼ舎さくらの移転計画の中で、ソーラー発電の計画をしましたが、設置には至りませんでした。

■生活クラブ虹の街と連動した環境問題への取り組み

生活クラブ虹の街が取り組む放射能問題への活動と連動し、「さよなら原発10万人集会」に参加しました。また、生活クラブ風の村としても、脱原発の姿勢を表明するため、法人のホームページに「脱原発への取り組み」のページを立ち上げました。

9. 災害対策

■「災害対策指針・災害時の職員行動ガイド」を運用します。

災害対策プロジェクトを立ち上げガイドの見直しを行い、10月に改定版を発行しました。防災備品、備蓄食料の整備のため補正予算を計上し取り組みました。災害等の際に地域の被災者も受け入れることを前提に検討しています。

■被災者支援を継続します。

東日本大震災被災者支援ネットワークちば(生活クラブ風の村、生活クラブ虹の街、JFSA、市川ガンバの会の4者で構成)と、共同支援ネットワークメンバ

一として被災者支援を継続し、2012年11月で12名が参加しました。また、今後の支援の方向性を探り、現状を理解するために、所長会議メンバーで1泊2日の被災地見学・研修を行いました。

■はぐくみの杜君津(児童養護施設)建設

当初は2013年4月開所の予定でしたが、2013年8月予定に延期しています。児童養護施設設立準備会の設置に加えて、生活クラブ虹の街でも建設支援プロジェクトが立ち上がり、協力体制ができています。NPO 法人人力舎を生活クラブ風の村が継承して運営していくことが、はぐくみの杜君津と人力舎との連携、人材確保、経営の観点から必要であると総合的に判断し、4月から事業を継承します。

■生活クラブ風の村光ヶ丘に訪問看護ステーションがスタートします。

サポートハウス光ヶ丘参番館併設事業として2011年度より準備を進めていた訪問看護ステーション光ヶ丘が2012年4月にオープンしました。

■市川市における生活困窮者向け住宅建設協力体制について 前述1. 参照

■あかとんぼ佐倉開所

2012年6月1日、「生活クラブ風の村あかとんぼ佐倉」が開所しました。職員は行動基準小冊子に沿って日々の業務に取り組み、子ども達が安心・安全に過ごせるよう環境づくりに励みました。また、保護者の方からの意見や要望を伺う機会を設け、その声にしっかりと応えられるよう信頼関係を大切に、取り組むことができました。

10. 新規事業

■我孫子市で地域包括支援センターを開設

我孫子市と協議しながら準備してきた地域包括支援センター事業「我孫子地区高齢者なんでも相談室」が4月1日から始まりました。

■重症心身障害者(以下、「重心」)をおもな対象とする通所施設

NPO 法人さくらクローバーの会、佐倉市ほか関係する方々による設立準備会を組織し検討を重ねました。2012年10月1日に開設準備室を設置、平成24年度社会福祉施設等施設整備補助金の交付を受け、2013年7月に風の村さくら隣地に定員20名の生活介護事業所として開設しました。常時1対1のケアを行い、看護師の配置と職員による医療ケアを実施します。

■流山市での学童保育事業

流山市の指定管理者として、ちびっこのびのびクラブ、ちびっこなかよしクラブ、おおぞら学童の運営を4月から担いました。2年目となる2013年度は、生活クラブ風の村の保育の基本姿勢に沿った保育の実践が課題です。

事故報告 (2012年4月～2013年3月累計)

※()内は事業所数	不履行	遅刻	対人	物損	個人情報漏洩	その他	合計
訪問介護・ケアプランセンター(15)	19	17	14	12	4	22	88
デイサービス(4)	0	0	11	1	1	0	13
相談事業(4)	0	0	0	0	0	0	0
保育園(2)	0	0	3	0	0	0	3
地域生活支援事業(1)	0	0	0	0	0	0	0
学童(2)	0	0	1	0	0	0	1
生活クラブ風の村八街 【訪問/特養ホーム/ショート/デイ/管理部】	1	0	280	2	2	5	290
生活クラブ風の村光ヶ丘 【訪問 居宅/有料老人ホーム/定期巡回/小規模多機能型居宅介護/訪問看護/管理部】	1	0	7	2	0	1	11
生活クラブ風の村さくら 【訪問/居宅/ショート/デイ/訪問看護/定期巡回/生活介護 継続B/障がい児通所(4)/管理部】	3	3	14	6	0	7	33
生活クラブ風の村いなげ 【訪問/居宅/サービス付高齢者向け住宅/ショート/デイ/訪問看護/障がい児通所/診療所/鍼灸院/管理部】	4	0	36	4	2	11	57
高根台つどいの家 【訪問/サービス付高齢者向け住宅/定期巡回/小規模(高根台/南三咲)】	3	0	16	1	0	0	20
ライフ&シニアハウス市川	1	1	66	6	1	29	104
本部	0	0	0	0	1	7	8
合計	32	21	448	34	11	82	628

2012年度決算報告

1. 事業・資金収支の状況

事業活動収支の収入は前年度期中開設の特養ホーム八街増床、風の村いなげの大型施設開設の収入増と、流山学童クラブ運営、我孫子地域包括支援センター、訪問看護ステーション光ヶ丘、あかとんぼ佐倉、小規模多機能ハウス南三咲、デイサービスセンター高根台、定期巡回ステーション光ヶ丘・さくら・高根台等の新規開設があり、前年比 119.2%と大幅な収入増となりました。支出については特養ホーム八街の大規模修繕を行い前年より増加しておりますが予算比 97.7%と予算内の執行ができました。法人全体の経常収支差額は前年比 382.3%の 60,392 千円となり増収増益の収支構造になりました。

財政状態（貸借対照表）は総資産 3,848,114 千円となり前年より 37,969 千円増加しています。内部留保率は 13.1%と前年より 1.4%増加しました。

資金収支は地域福祉支援等のための取り崩し 33,324 千円と特養ホーム八街修繕の為の修繕積立金 30,012 千円の取崩しを行いました。その他将来のために、修繕積立金 16,000 千円と施設・設備積立金 9,000 千円の積立を行いました。

項目	事業活動収入	前年比	事業活動支出	前年比	経常収支差額	前年比
計画	3,469,200		3,433,476		8,234	
実績	3,440,631	119.2%	3,355,309	117.8%	60,392	382.3%
予算比	99.2%		97.7%		733.4%	

資産の部		負債の部	
流動資産合計	637,513	流動負債合計	463,496
現金・預金	109,639	短期運営資金借入金	113,000
未収金	518,627	未払金	222,776
立替金	5,880	施設設備等未払金	44,961
前払金	2,807	預り金	12,672
貯蔵品	453	前受金	3,805
その他流動資産	104	賞与引当金	66,282
固定資産合計	3,210,600	固定負債合計	1,852,461
基本財産合計	2,148,184	設備資金借入金	1,535,742
建物	1,985,767	長期運営資金借入金	117,568
土地	162,417	長期預り金	172,665
その他の固定資産合計	1,062,416	退職給与引当金	26,483
建物	404,911	負債合計	2,315,958
構築物	155,802	純資産の部	
機械及び装置	6,555	基本金の部	
車両運搬具	3,932	基本金	113,955
器具及び備品	128,360	基本金	113,955
土地	72,753	国庫補助金特別積立金	914,817
建設仮勘定	44,997	国庫補助金等特別積立金	914,817
権利	15,261	その他の積立金	187,928
ソフトウェア	21,557	修繕積立金	105,975
投資有価証券	15	施設・設備整備積立金	36,955
長期預け金	65,336	建設積立金	44,997
施設・設備整備積立金	36,955	次期繰越活動収支差額	315,454
修繕積立預金	10,000	(うち当期活動収支差額)	57,471
保育所繰越積立預金	95,975	純資産の部合計	1,532,155
資産合計	3,848,114	負債及び純資産の部合計	3,848,114

勘定科目		予算	決算	
経営活動による収支	収入	介護保険収入	2,279,409	2,192,362
		自立支援費等収入	387,691	410,450
		療養費等収入	77,605	78,068
		運営費収入	144,503	144,503
		私的契約利用料収入	21,276	21,884
		ヘルパー講座事業収入	2,400	1,399
		受託事業収入	1,684	812
		入居者の生活援助受託収入	260,879	269,731
		入居者の生活援助収入	79,822	80,588
		建物貸付事業収入	15,062	15,463
	経常経費補助金収入	139,461	151,960	
	寄付金収入	342	2,650	
	雑収入	16,057	22,845	
	就労支援事業収入	1,368	1,565	
	借入金利息補助金収入	780	712	
	受取利息配当金収入	740	1,018	
	会計単位間繰入金収入	1,308	1,529	
	経理区分間繰入金収入	41,070	48,549	
	経常収入計	3,471,465	3,446,097	
	支出	人件費支出	2,429,665	2,378,593
事務費支出		513,720	493,924	
事業費支出		315,152	307,185	
借入金利息支出		29,009	26,661	
会計単位間繰入金支出		1,308	1,529	
経理区分間繰入金支出		41,070	48,549	
経常支出計	3,329,925	3,256,442		
経常活動資金収支差額	141,539	189,654		
施設する設備支等による収支	収入	施設整備等補助金収入	14,071	17,515
		固定資産売却収入		417
	施設整備等寄付金収入	1,500	1,500	
	施設整備等収入計	15,571	19,433	
支出	固定資産取得支出	173,462	152,862	
	施設整備等支出計	173,462	152,862	
施設設備等収支差額	▲ 157,890	▲ 133,428		
財務活動による収支	収入	借入金元金償還補助金収入	3,250	3,250
		積立預金取崩収入	63,336	87,336
		その他の収入	6	1,611
	財務収入計	66,592	92,198	
	支出	借入金元金償還金支出	77,671	77,671
		投資有価証券取得支出		4
		積立預金支出	25,000	29,000
		その他の支出	19,227	25,576
		流動資産評価減等による資金減少額等		15
		財務支出計	121,899	132,267
財務活動資金収支差額	▲ 55,307	▲ 40,069		
予備費	34,000			
当期資金収支差額合計	▲ 105,658	16,156		
前期末払資金残高	224,142	224,142		
当期末払資金残高	118,483	240,299		